

1月17日(金)学校生活

【心にとどまる言葉】

誰かに言われた一言だったり、本で読んだ一文だったり、ふとした時に思い出すことはありませんか。わたしたちの仕事は相手への敬意を失うと成長できません。指導者は自分が中心になり、子どもが受け身になりがちです。子どもたちが持っている意欲を奪わず、誇りとプライドにより自分の行動や発言を的確にコントロールできるいいですね。大人のわたしたちが言葉の見本を示していきましょう。



1995年（平成7年）1月17日（火曜日）5時46分52秒に発生した兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）から今日は、30年。

来住小学校では、3学期始業式から今日までを防災週間として、「いのち」について考えたり、地震が起きた時の行動や人としての在り方、生き方について学んだりして過ごしました。最終日は、全員で黙とうし、再度、防災週間での学びを振り返り、「しあわせ運べるように」を歌い、自身で確認をしました。



- ・地震はいつ・どこで起きてもおかしくない
- ・復興はみんなで たすけ合う
- ・自分のいのちは 自分でまもる
- ・1月17日をわすれない



しんにも まけない つよいころを もって



なくなった かたがたのぶんも まいにちをたいせつに いきていこう



ささえあうところと あしたへの きぼうを むねに



とどけたい わたしたちのうた しあわせ はこべるように



しあわせはこべる
一人でありますように



やさしい はな みらいを ゆめみ

